

千葉明德短期大学 育ちあいのひろば

たいむ

11月号 [H25.11.7発行]

■大盛り上がりの交換会■

10月8日(火)から22日(火)までの2週間、秋・冬物の衣類・おもちゃ交換会が行われました。今回は2回目ということもあってたくさんの衣服が集まり、大盛り上がりでした。

印象的だったのは、お母さん同士で『これ、〇〇ちゃんに似合うと思って…』『これ、似合いそうじゃない?』と、みんなで一緒に考えたり、探したりしていたことです。子どもの成長は早いので買った洋服もすぐに小さくなってしまふ…新しい洋服を買ってもすぐに汚してしまう…、そんな悩みは母なら1度は思ったことあるはず!(私自身も困っていました)そんな時、このような企画はとてもありがたいと私も母親の立場で参加しました。

これからもママたちのやりたいことをどんどん企画にしてくり返しこのような企画をやっていきましょう!たいむでは、そんな企画と一緒にどんどんやっていきたいです。ぜひスタッフまで声をかけてください!(の)



■企画した松井さん、小林さんから一言■

衣類・おもちゃ交換会にご参加、ご協力ありがとうございました。このような企画を提案したのは昨年の明德短大の学園祭で実施した元スタッフりなちゃんとママたちで開いたフリーマーケットがきっかけでした。この時は大人服と雑貨が中心でしたが、整理してみると使わなくなった子供服がたくさん…。でも、汚してしまったものもあるし、値段をつけるには気が引けます。他の子育て支援センターでは年2回の交換会をしていると聞き、これをたいむでもできないかと相談させていただきました。

1回目の春・夏物会を開くときは「不用品の山になってしまったら?」とか遊び場の邪魔になって「事故が起きないだろうか?」などと考えましたがみなさんのご協力で楽しく交換会をすることができました。たくさんの子供服を前にこんなにじっくりお洋服を見られるのは嬉しい!と思いました。お母さん同士で「〇〇ちゃんにこれどう?」と自分の子以外にも勧めてみたり、楽しい光景でした。

自分には不要なものでも誰かが必要としてくれ、交換会で持ち帰ったものを、すぐたいむに着てきて「着てきたよー！」と見せ合う光景は交換会ならではの光景でした。交換会で持ち帰ったものがまた、次の交換会に戻ってきて、さらに違う人の手に渡ってリサイクルし続けてくれたら素敵だと思います。

(松井 彩)

交換会をやると思ったのはサイズアウトしてしまったものや着なかったものこれから着られるもの着たいものを展示させてもらい、リサイクルすることが目的です。また、結果ママの交流にもなったように思います。

今回は2回目ですが男の子のものが多かったように思います。お兄さんから小さい子におさがりみたいな感覚で知っている子からだからおさがりも嬉しいですね出品したらすぐになくなってしまふことが多かったようです。ママはSALEでいいものをさがす感覚に近かったかもしれません。

いつも場所を長期間提供してくださって、たいむのみなさまありがとうございます。

また何か楽しい企画がありましたらご協力よろしくお願いします。

(小林 真理子)

■芋ほり■

10月18日(金)に短大農園の芋ほりをしました。春と一緒に苗を植えた学生と、散歩をしながら農園に向いました。「大きなおいもになったかな!？」など前から楽しみにしていました。農園に着くとお母さんたちも芋畑を見て驚きの様子。しかし、子どもたちは「おいもー!」と喜んでくれたり、キョトンとしている子もいました。お母さんと一緒に芋ほりの練習をしてきた子やシャベルを使ったり、小さな手で土を掘ったりと、にぎやかになりました。

一方、最初はどうしたら良いのか戸惑っていた学生たちも「あ!こっちにお芋あるよ!」と子どもたちを誘い、一緒に楽しむことができました。また、芋ほりならではの「うんとこしょ、どっこいしょ」と、しりもちをつく場面もあり笑いが絶えませんでした。畑の往復の距離が長く、赤ちゃんと一緒にのお母さんが大半だったため、「学生さんが一緒に助かりました」とお母さん方からも温かいお言葉をいただきました。

実は、事前にスタッフで畑を見に行った時に畑の様子を見て、芋の大きさと数が極めて少ないことが分かり、学生と一緒に“買って来た芋”を埋めました。子どもたちの楽しみにしている姿を目にしていると、買って来た芋と一緒に混ぜてよいものかと悩みました。しかし結果的に、宝探しのように土を触りながら楽しめていたので、今回はこれでもよかったのかなとも感じました。(よ)



*記事にもあるように、今回、我々はあえて「偽装」をしました(ちなみに農園の芋のみで中庭の芋は豊作でした)。これが、倫理上・教育上(子どもにも、学生にも)良かったのかどうかはわかりませ

ん。しかし、まだ「いもほり」を体験したことが乏しく、あまりに少ない成果であると興味・関心が湧かないのではと考え、今回このようなことをしました。学生については、子ども達と芋ほりを体験して楽しむという事を優先しました。

しかし、我々も本当に良かったのか、今も疑問を持っています。普段の関係が継続する保育園や幼稚園であれば「今年は実りが少なかった」という結果を、皆で共有すれば、またあるいは、次はがんばろうということで済むのかもしれませんが、たいむのような広場では、そうもいかないこともあります。

今回のような運営上の「ゆらぎ」は、いろいろな場面で、絶えず発生していますが、我々はそれを皆さんと共有していきたいとも考えています。そのため、あえて紙面上でお知らせしました。(石井)

22日(火) 中庭の畑で2回目の芋ほりをしました。夏に水遊びを一緒にした学生も一緒に芋ほりに参加しました。はじめ、子どもたちはちょっぴり恥ずかしそうにしていました。そこでお兄さんがダンゴ虫を見つけ、子どもたちに声をかけてくれました。すると、恥ずかしそうにお母さんの後ろに隠れていた子どもたちは嬉しそうに興味津々に「なになに？」とお兄さんのところへ…。それをきっかけにお兄さんと一緒にダンゴ虫を触るようになりました。「あ、ここにもいた！」と次のダンゴ虫を取ろうとした時、前回の芋ほりにも参加していたNちゃんは「あ、これお芋だ」とお芋が土の中にあることに気がつき、嬉しそうに土を掘り始めました。

そして、誰かが声をかけるわけでもなく、自然に芋ほりが始まりました。みつけた芋はとても大きく、Nちゃんが一人で掘っても、ひっぱっても抜けず…スタッフも一緒に掘ることにしました。すると、抜けると思わず尻もちをついてしまうほどでしたが、Nちゃんの顔と同じくらい大きさのお芋が取れました。Hちゃんはママと一緒に「うんとこしょ、どっこいしょ」と楽しそうに抜いていました。Tくんは、お芋は気になるけれど、土が嫌なのかみんなの様子を見ていました「おいもどこ？」「もっとおいも掘りたい！」という声も聞かれましたが、たくさんの大きな芋を前に、満足そうな表情の子どもたちでした。(の)



■焼き芋大会■ (31日(水))

みんなで掘った大きな芋を中心に、焼き芋をしました。朝から職業体験の中学生とともに準備し、10時から、炭になるように薪に火を入れました。皆が集まったところで、芋をホイルに包みました。子どもたちは、まだ洗っていなかった残りの芋をさらに洗い、そして焼きました。焼きあがりまで約30分。待っている間には焼きマシュマロをつまみました。さて、いよいよ食べる時、ほくほくのやきいもに皆、

舌鼓を打ちました。「おかわり」と言って何度も来る子、自分の家から持ってきたかわいらしいピンクのホイイル（焼いたら銀色になりましたが…）で包んだ芋が焼けるまでじっと待っている子など、秋晴れの中庭で、とてもいいひと時を過ごしました。そしてとうとう、あんなにあった芋が（今回も少し買い足しました…）、全てなくなってしまうほどでした。

今回、焼き芋係が頼りない私（石井）と中学生2名だったためか、芋を包むところから、取り出した芋を皆に配るところまで、皆さんで動いて皆さんでやっていただくことになりました。皆さん大人なので当たり前のことかもしれませんが、スタッフがいても（当日はスタッフの1人が休みでした）こういう大きな企画も動くのだなあとおつくづく感心しました。そして、子どもたちは、何もガードをしていなかったにもかかわらず、きちんと火のまわりから離れて見ていました（えらい！）。

また、終了後も中庭の小山にダンプトラックやブルドーザーなどのおもちゃでいつまでも遊ぶ姿が見られました。みなさんぜひ、寒い日もありますが、どんどんたいむの部屋だけでなく、中庭でも遊んで下さると嬉しいです。そのためにも、何度か、焼き芋はしたいと思いました。今日は中学生にもいい場面をたくさん見てもらえたと思います。（石井）



■秋祭り■

29日(火)学生企画の「秋祭り」が行われました。ハロウィンが近いということもあり、みんなで仮装をしました。先日の交換会であった洋服を着て仮装していたり、手作り衣装を着て仮装をする姿も見られ、いつもとは違う可愛らしい雰囲気会場は大賑わいでした。他には学生手作りのぬり絵やボールプールなどで遊びました。

しかし、お兄さんお姉さんがいて、仮装もして、いつもと違う楽しい雰囲気に子どもたちの気持ちも楽しくなって、ソファの上からボールプールにむかって飛び込んだり、おもちゃを持ったまま入り込んで危険な姿が見られ、怪我をしてしまうのではないかとヒヤヒヤしました。今回は学生企画だったので、どこまで私たちスタッフが声をかけるべきか学生に任せるべきかととても迷いました。学生にはたくさん経験をし、いろいろなことに気付き、現場に出てほしいと思っています。子どもと一緒に楽しむことも大切なことですが、楽しいだけではなく、目の前で起きていることだけではなく全体に目をむけ、事故につながる前に危険を予測し、環境を設定することも必要だったのではないかと思います。

写真コーナーでは、親子で仮装し撮影をする姿が多くみられました。「私(ママ)の写真ってなかなかいいから嬉しい！」と撮影をしたお母さんからの声があり、写真が撮れたこと、仮装できたことも喜んでくれました。写真を撮るとおかしがもらえると知った子どもたちは、おかしが欲しくて何度も写真コーナーに来てポーズをとっていました。

学生がいたことで子どもがお母さんから離れて遊んでいる姿もとても印象的でした。それはお母さんにとって嬉しいような寂しいような…でも、ちょっぴりホッとできる時間だったのではないのでしょうか？このように学生企画のイベントも子どもたちにとっても大人にとっても特別な日という感じで私

たちスタッフもいつもとは違うたいむの様子を見ることができました。(の)



■大百池公園への散歩■ 10月30日(水)

この日は“まいペース・まいすぺえす”の日でしたが、通常のオープンスペースの日にし、遠足気分で大百池公園まで歩いて散歩に行きました。また、その日はおゆみ野南中学校から2名の学生が職業体験に来ていました。

短大からはFくん、Hくん親子と一緒に歩いて大百池公園に向かいました。大百池公園に行く間、畑、木になっているものをよくみていたFくん。「これ、なんだろう？」しばらくするとママが「あ、これオナモミだ！」と言ってFくんの服につけてみました。そして、次に見つけたのはどんぐりでした。その時、Hくんが「穴のあいているどんぐりは虫が出てくるから拾わない方がいいよ！」とみんなに教えてくれました。

いろいろな発見をしながら、片道30分くらいの道のりを歩き、公園に到着しました。すると先に公園に到着していたお友だちが「おーい！」と手を振る姿が公園から見えました。その姿に嬉しくなってたくさん歩いて疲れているはずなのに思わずみんなで走りだしました。到着後は休憩もせず、元気に遊び始めた子どもたち。いつもたいむにいる時は「一緒に遊ぼう」と私たちスタッフを誘う子どもたちも友だちと一緒に走り回ったり、学生と遊んだりしていて、なんだかちょっと寂しい気持ちにもなりました。しかし、子どもたちが思い切り遊んでいる姿を見て、私たちスタッフも負けにくい思い切り走ったり、ブランコに乗ったりしました。



今回は、全部で10組の方が参加してくださいました。初めての企画、しかも急だったのでどのくらいの参加があるか心配でしたが、当日は天気も晴れて、いつものたいむとは違う広い公園でのびのび遊べたのでとてもよかったと思います。子どもたちも広い芝生でシートを広げ、お弁当を食べられることを喜んでいました。みんなでお弁当を食べながら、ゆっくり時間を忘れてお話するのもたまにはいいですね！これから寒くなっていきますがまた、このような企画ができればいいなと思います。(の)



Hくんはこの木に登ることをお母さんと一緒に挑戦していました。そして、自分が登れたことをたいむで留守番をしている石井さんに言いたい！この写真も見せたい！と言いながら、たいむに帰ってきました。報告すると「すごいね！」と言われ、とても嬉しそうでした。

■大百池公園までのマップ（Yahoo 地図より）

